

## そして・・・既に動き始めています

現場に戻り、実際にAIを活用して業務改善に取り組む事例が出ています。その一例が、工務担当Kさんの挑戦です。

工務では、印刷用データの入稿予定時刻を過ぎても入稿連絡がない場合、営業への確認や工程調整などの追いかけ業務が発生していました。そこで生まれた問いは、シンプルです。

「AIを活用して、自動で通知をする仕組みを構築できないか？」

### AIを活用して構築中の工程管理の流れ

営業から入稿予定が入る

工務がスプレッドシート入力

入稿予定時刻になる

Slackで営業・工務・オペレーターへの通知と情報共有

AIに相談しながら、スプレッドシート※1とSlack※2を連携させた通知の仕組みを構築。通知機能はすでに稼働し、運用前の確認段階に入っています。

まだ完成形ではありません。しかし重要なのは、やってみたという事実です。

研修で学んだことが活かされ、確実に現場で動き始めています。

※1 Googleが提供するオンライン表計算ツール。

Excelのようにデータ管理ができる。

※2 チーム向けチャットツール。

メッセージや通知をリアルタイムで共有できる。

今回の特集は、「会社としてどう進むか」を示す回でした。同時に、小さな変化が始まっていることも感じています。AIは目的ではなく、あくまで手段。より良い仕事をつくるための道具です。全社で同じ方向を向けたこと。そして、その学びが少しずつ現場で形になり始めていること。この流れを、次の一歩につなげていきたいと思います。(T)

— 生成AIブースター研修を終えて —

## AIと共創する、その第一歩



— 生成AIブースター研修を終えて —

# AIと共創する、その第一歩

2026年のスローガン「AIと共創」。

その言葉を掲げるだけで終わらせないために、外部講師を招いて実施した生成AIブースター研修が、全社で受講完了しました。生産部、旭川・札幌・東京の営業拠点を含む全部署が同じテーマで学び、同じスタートラインに立ちました。これは単なる研修実施の報告ではありません。会社として、AI活用を本気で進めると意思表示です。



## なぜ、全社で取り組んだのか

AIは一部の部署だけが使うものではありません。

制作、営業、工程管理、総務など、どの業務にも活用可能性があります。だからこそ、特定の担当者だけでなく、組織としての基礎体力を高めることを選びました。



旭川本社だけでなく、札幌支社や東京支店も研修を行いました。

## 部署別2コースで実施

### ■実務即戦力型コース（総務・生産部・営業推進室）

資料作成の効率化、情報整理の自動化、アイデア発想の補助など日常業務に直結する活用を実践。

### ■新規事業開発コース（旭川・札幌・東京／採用支援事業部）

企画立案の加速、提案資料の高度化、新サービスの構想支援などAIを発想のパートナーとして活用する視点を養いました。

## 最終日は“自分の言葉”で発表

最終日には、各自がAI活用のアイデアや試作内容をプレゼンテーション。部署を越えて共有することで、「まずやってみる」「小さく試す」という空気が社内に生まれました。

研修はゴールではありません。ここからが本番です。

## 実践型プログラム

使用ツール：Gemini / Gem / NotebookLM 他

重要だったのは、「操作を覚えること」ではなく、

- ・この業務にどう使えるか
- ・今のやり方をどう変えられるか
- ・自分の仕事をどう進化させるかを考える時間でした。

